

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0174100511		
法人名	有限会社 ヤマギシ企画		
事業所名	グループホーム 入江		
所在地	北海道釧路市入江町8番29号 (電話) 0154-23-8133		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成21年2月23日	評価確定日	平成21年3月23日

## 【情報提供票より】(平成21年2月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年10月24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算	10.8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 2×4 造り		
	2階建ての 1～2階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	13,650～18,900 円	
敷金	有( ) 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 82,800 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	380 円
	夕食	430 円	おやつ	円
	または1日当たり			円

### (4) 利用者の概要(2月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 82.5 歳	68 歳	最高	95 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	崔内科クリニック、釧路脳外科病院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

生活に利便性のある地区にあるこのホームは、職員の定着率が高く、資格の取得についてもホームで働きながら介護福祉士やケアマネージャーの資格を多数の方が取得しています。ホーム内には行事の写真や利用者が制作したパズルやぬり絵の作品が飾られ、明るく、楽しく過ごされている様子が伺えます。ホーム長は地区のグループホーム協議会の事務局長も兼ねており、協議会の通信で会員のホームの様子や運営者・管理者の考え方や取り組み方を紹介するなどして地域のグループホームの質の向上にも貢献しています。また、町内会と消防署と協力して避難訓練の実施や夏祭りなど地域行事への参加も行われています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、地域と協力しての避難訓練の実施と運営推進会議の定期的な開催でしたが、避難訓練は実施されています。また、運営推進会議の定期的な開催は委員の都合で不定期ですが、今後議題の工夫や行事の際に定期的な開催することを期待します。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員で行い、管理者がまとめ作成し、職員の日々の業務やケアの振り返りの機会と捉え、前回の改善点は、具体的に改善に向けて全職員で話し合いサービスの質の向上に取り組んでいます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議の主な議題は ホームの近況報告 自己評価・外部評価の結果の概要報告 行事予定について 防火・防災の取り組みと避難訓練の実施計画 質疑応答
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月、発行している「入江便り」で行事の案内、利用者の日常生活・金銭出納等の報告がなされています。体調の変化については、些細なことでもその都度、電話連絡などで詳細に報告しており、家族が来訪時、相談しやすい雰囲気作り心がけ、なるべく面談する機会を作っています。また、家族会や運営推進会議で意見を聞く機会を作り運営に反映させています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者は町内会の行事に積極的に参加しています。地域の人々には、ホーム主催の夏祭りや避難訓練などの行事に参加や協力して頂いています。また、地域の小学校の運動会、学芸会への参加や小学生の定期的なボランティアでの訪問を受けるなど地域の人々との相互交流に努めています。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合い作成したホームの理念に加え、「利用者さんと地域の方が顔なじみとなるような関係を築き、地域の中での高齢者支援の拠点となります。」という地域密着型の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を共有し、重要性を確認し合い、日々取り組んでいる。また、職員個々はケアに対して疑問や課題があれば理念に立ち返り実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は町内会の行事に積極的に参加している。地域の人々には、ホーム主催の夏祭りなどの行事に参加して頂いている。また、地域の小学校の運動会、学芸会への参加や小学生の定期的なボランティアでの訪問を受けるなど地域の人々との相互交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行い、管理者がまとめ作成し、職員の日々の業務やケアの振り返りの機会と捉え、前回の改善点は、具体的に改善に向けて全職員で話し合いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は町内会会長・家族会会長、副会長、民生委員、ホーム長、管理者、包括支援センター職員が参加し、ホームの地域に対しての役割や地域行事への参加、ホームの現状報告についての意見交換を行っている。		運営推進会議で出た意見交換によりホームの役割が理解され、町内の方が入居されるなど成果が出ている。今後も運営推進会議を活かして、地域との連携の強化を図り、議題の工夫や行事の際に開催するなどして定期的を開催することを期待する。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護福祉課の担当者へは、定期的に現状報告や相談の為、訪問している。包括支援センターからも定期的な訪問もあり、サービスの質の向上に活かせるように取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、発行している「入江便り」で行事の案内、利用者の日常生活・金銭出納等の報告がなされている。また、体調の変化については、些細なことでもその都度、電話連絡などで詳細に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時、相談しやすい雰囲気作りに心がけ、なるべく面談する機会を作ることを心掛けている。また、家族会や運営推進会議で意見や不満、苦情等を聞く機会を作り、それらを運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での異動がある場合などには職員が自分で挨拶をし、いつでも会えることを伝えており、多数の職員が利用者との馴染みの関係を作ることで、利用者への精神的なダメージを防ぐ配慮を心掛けている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市やグループホーム協議会の研修や講習の参加を奨励しており、職員の資格取得についても、運営者は協力的で、介護福祉士やケアマネージャーの資格を取得した職員も多数いる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会の中で、講演会・交換研修・訪問研修や親睦会で相互の関係を深める機会を設けるなどしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に、利用者・家族の見学などをしてもらい雰囲気に馴染めるよう工夫したり、本人の納得がいかなければ無理強いせず、まずホームに住む、あるいは泊まるということを理解してもらうようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今までの生活歴を踏まえ、園芸や畑作りを教えていただいたり、お料理をしているときにイカの皮のむき方や上手なお刺身の切り方などを教えていただき一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>記録には体調や行動の変化や本人の言った言葉をそのまま書くように心掛けている。また、一部センター方式を導入し、生活歴を踏まえ、全職員が利用者の希望や意向などを把握できるよう努めている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族の希望や医師からの助言・情報や、カンファレンスでの職員からの意見やアイデアを取り入れ具体的な介護計画を作成している。また、今後は記録とケアプランの連動性を更に意識した取り組みも検討している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画書に記載している個別の期間を目安に評価を行い、3ヶ月に一度計画的に見直しが行われている。また、利用者・家族の要望や利用者の状態変化に応じてその都度、現状に即した介護計画の見直しが行われている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>定期以外の通院介助や懐かしい場所にお連れするなど柔軟な支援ができるよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が入居前からのかかりつけ医にかかっている。定期的に往診もあり看護ステーションとの医療連携も行われ、利用者の健康についてのアドバイスや相談を受けられる体制になっており、利用者が安心して過ごせるように努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針があり、治療やリスク等をできるだけ早い段階で家族やかかりつけ医と十分に話し合い、方針を全員で共有し実践に活かしている。また、運営推進会議や家族会での議題としてホームができることを理解してもらおうような働きも行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報は決められた場所に保管されている。利用者に対してプライバシーを損ねるような言葉かけや対応がないか管理者が常に気を配り、全職員にも徹底して指導している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物、外食や日々の日課となっている食事の準備や入浴など、できる限り本人の希望やペースに沿えるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みや味付けなども遠慮せずに言ってもらえるようになっている。職員と利用者が本人の希望や力量に応じて一緒になって楽しんで食事の準備や片づけなどを行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めずに、利用者の希望に応じて週2～3回を目安に夜間でも入浴できるように支援している。また、ゆっくりとくつろいで入浴が楽しめるように心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の買い物などに一緒に行っていただき、ドライブや外出に出かけたり、農業経験者から教えていただきながら畑を作るなどの他、食事の準備、洗濯ものたたみなど役割や楽しみごと、気晴らしの支援が行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・外気浴などご希望に応じて出かけたり、食材の買い物に一緒に出かけるように支援されている。また、日帰りの温泉ツアーや花見などを家族の協力も得て行っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけていません。玄関は、センサーの設置などで鍵をかけないケアに取り組んでおり、利用者が外出する時は、職員がさりげなくついていき安全面で配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防火管理者が配置され、緊急連絡網、緊急対応マニュアルも作成している。緊急時に全ての職員が速やかに対応ができるように夏・冬年2回、火災避難訓練が実施されている。また、消火設備についても自主点検が実施され不測の事態の対策がなされている。</p>		<p>年2回のホームでの火災避難訓練の他に、消防署や自治会と連携して、地域での防火・避難訓練を実施しており、以前より地域との連携が強化されている。今後は夜間帯の対応が懸念されており、その対策と避難訓練の実施を検討している。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>具体的な食事摂取量・水分摂取量が食事摂取表に記録されており、水分摂取については、不足しないように徹底している。また、一人ひとりの体調や好みに合わせた食事を提供し健康管理に努めている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には季節の飾り、行事などの写真や利用者と職員と一緒に縫って作ったタペストリーなどが飾られています。日当たりの良い共用空間にまぶしい光が入っている時にはカーテンを引くなどして居心地よく暮らせるように工夫されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれの方がご自分の使い慣れた家具などを持ち込まれている。仏壇を持ってこられている方は毎朝ご飯やお水をお供えするなど本人が居心地よく過ごせる空間となっている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。